

遠軽町立遠軽中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 遠軽町立遠軽中学校（生徒数 192 名）
小学校名 遠軽町立遠軽小学校（児童数 117 名）
遠軽町立東小学校（児童数 254 名）

1 推進地域の状況

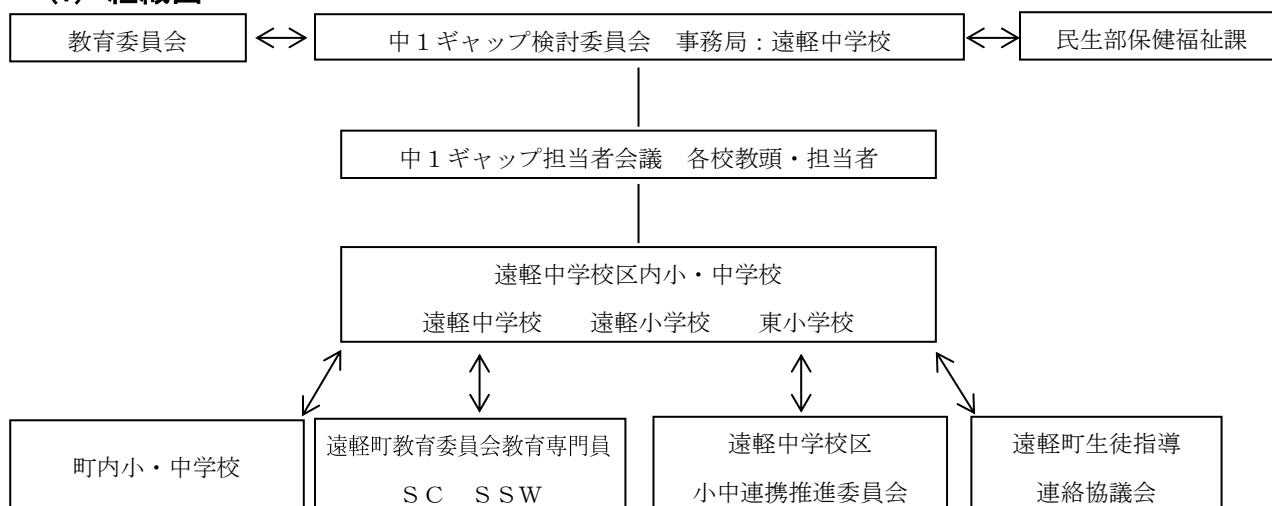
推進地域は中学校1校、小学校2校からなり、小学校卒業後は全員が同じ中学校で生活する体制となっている。小学校2校は、学校や学級の様子が大きく異なり、中学校入学後に友人関係を築くことができない生徒が見られるなど、中1ギャップが大きな課題となっている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・子ども理解支援ツール「ほっと」及び「ほっとプラス」、小学校第6学年児童及び中学校第1学年生徒を対象とした「中学校進学アンケート」を実施し、結果の分析シートを活用することにより児童生徒の理解に努め、推進地域の児童生徒にとって必要な関係機関との効果的な連携を目指す。
- ・各校の情報交流や小・中学校での指導方法に係る研修を行い、小・中学校間をつなぐ取組や「学習規律」「生活規律」の系統的な指導の確立を目指す。
- ・児童生徒のコミュニケーション能力の育成や他者との関わりを通して、学級・学年集団に適応する力を育成するとともに、自他のよさを理解し、自分自身の可能性を伸ばすことができる児童生徒を育成し、悩みを抱える児童生徒の不安解消や課題の改善を目指す。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・遠軽中学校区内小・中学校、教育委員会及び民生部保健福祉課からなる「中1ギャップ検討委員会」を設置し、中1ギャップ問題について様々な視点から検証考察を図る。
- ・遠軽中学校区内小・中学校の教頭・中1ギャップ担当者からなる、「中1ギャップ担当者会議」を設置し、中1ギャップ問題解消に向けた具体的方策や学校間連携について検討し、内容の一層の充実を図る。
- ・中1ギャップ問題担当の加配教員もしくは中学校教員による推進地域内における小学校への「乗り入れ授業」や「小6部活動体験」等を計画・実施し、円滑な中学校接続に向け事業推進を図る。

(3) 加配教員の役割

- 中学校教員による継続的な「乗り入れ授業」や「小6部活動体験」等の計画及び実施
- 子ども理解支援ツール「ほっと」や「生活アンケート」、「全国学力・学習状況調査」及び「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果を分析し、推進地域の児童生徒の特徴や地域特性等の把握と共有
- 不登校児童生徒の支援策の作成と実施
 - ・継続して欠席している児童生徒への支援策の作成と実施
 - ・不登校児童生徒に対する学習支援策の作成と実施
 - ・不登校児童生徒に対するICT機器を効果的に活用した学習支援策及び教育相談体制の構築と実施
- 不登校未然防止策の作成と実施
 - ・不登校及びいじめの未然防止に関わる課題の整理
 - ・不登校の傾向が見られ始めた児童生徒への早期の対応の充実

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	遠軽中学校	遠軽小学校・東小学校
3月	【新入学生徒に係る引継】 （遠軽中学校区小学校2校と実施） <ul style="list-style-type: none"> ○学習面、生活面、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ○特別な配慮を必要とする生徒についての確認 ○特別支援学級生徒に係る引継ぎは特別支援学級担当で実施 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○全校生徒に係る配慮事項等の情報交流 ○新入生歓迎会 ○生徒指導集会における生活規律の指導 ○自殺予防教育プログラムA - ① ○相談アンケート 	○全校児童に係る配慮事項等の情報交流
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケート ○第1回子ども理解支援ツール「ほっと」 ○第1回運営協議会 ○教育相談（全校生徒） 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケート ○第1回子ども理解支援ツール「ほっと」 ○第1回運営協議会
	【第1回遠軽中学校区中1ギャップ検討委員会及び第1回中1ギャップ担当者会議】 <ul style="list-style-type: none"> ○中1ギャップ検討委員会としての組織、方針、計画の確認 ○児童生徒の生活、学習等の実態交流と各校の実践交流及び協議 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回子ども理解支援ツール「ほっと」 ○生活アンケート ○教育相談（全校生徒） 	○第2回子ども理解支援ツール「ほっと」
	【遠軽中学校区小中連携交流会】 <ul style="list-style-type: none"> ○各教科や職種（事務や養護教諭）に分かれ連携内容を討議 ※小中連携交流会後、部会ごとに授業参観交流（7～9月） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○前期学校評価 ○授業参観交流 ○自殺予防教育プログラムA - ② ○第1回「こころと体のチェック」 	<ul style="list-style-type: none"> ○前期学校評価 ○授業参観交流
	【小6部活動体験】 <ul style="list-style-type: none"> ○事前に希望を取り、実施後、振り返りを実施（ねらいの達成度の把握に活用） 	

8月	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業期間中の学習サポート ○授業参観交流 ○自殺予防教育プログラムB - ① ○第2回「こころと体のチェック」 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業期間中の学習サポート ○授業参観交流
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回子ども理解支援ツール「ほっと」 ○自殺予防教育プログラムB - ② 	○第3回子ども理解支援ツール「ほっと」
<p>【第2回中1ギャップ担当者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中1ギャップ検討委員会としての組織、方針、計画の確認 ○児童生徒の生活、学習等の実態交流と各校の実践交流及び協議 		
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケート ○第1回「ほっとプラス」実施 ○自殺予防教育プログラムC - ① 	○いじめアンケート
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○第4回子ども理解支援ツール「ほっと」 ○自殺予防教育プログラムC - ② 	○第4回子ども理解支援ツール「ほっと」
<p>【遠軽中学校区小中連携交流会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科や職種（事務や養護教諭）に分かれ、今年度の連携活動をまとめる 		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果の情報共有 ○乗り入れ授業「音楽科」 ○自殺予防教育プログラムC - ③ ○自殺予防教育プログラムA - ③ ○自殺予防教育プログラム（「SOSの出し方に関する教育」出前授業）の実施 ○第2回「ほっとプラス」実施 ○第3回「こころと体のチェック」 	<ul style="list-style-type: none"> ○「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果の情報共有 ○乗り入れ授業「音楽科」
<p>【運営協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○推進校の取組の参観 ○中学校の管理職及び加配教員との協議 ○「中1ギャップ検討委員会」及び中心スタッフとの協議 		
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○小6一日体験入学 ○冬季休業期間中の学習サポート実施 ○第4回「こころと体のチェック」 	<ul style="list-style-type: none"> ○小6一日体験入学 ○冬季休業期間中の学習サポート実施
<p>【小学校第6学年一日体験入学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験授業ならびに施設説明 ○小学校第6学年「中学校進学アンケート」の質問に対する回答 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業「音楽科」 ○自殺予防教育プログラムC - ④ 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業「音楽科」 ○中学校進学アンケート
<p>【第3回遠軽中学校区中1ギャップ検討委員会及び第3回中1ギャップ担当者会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度の反省ならびに事業終了後の在り方の確認 ○小・中学校の引き継ぎ事項の確認 		
3月	<p>【入学生徒に係る引継】（校区小学校2校と実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習面、生活面、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 ○特別な配慮を必要とする生徒についての確認 ○特別支援学級生徒に係る引継ぎは特別支援学級担当者で実施 	

5 事業の成果

○よりよい人間関係の構築を図る特別活動等の改善充実

よりよい人間関係の構築に向け、教育課程にコミュニケーション能力育成に向けた取組や、自殺予防教育を位置付け、全教職員の共通理解の下、計画的に実施することで、中学校第1学年の子ども理解支援ツール

ほっと	関係維持	仲間強化	自己統制
1回目	51.3	51.3	50.4
2回目	51.4	51.9	51.0

「ほっと」の「関係維持」「仲間強化」「自己統制」の数値に改善傾向が見られ、安心できる学級・学年づくりにつなげることができた。

○各校の情報交流や子ども理解支援ツール「ほっと」等の各種調査結果の効果的な活用

中1ギャップ担当者会議における情報交流により、推進地域内小・中学校の児童生徒の実態を把握することができた。また、それらを踏まえ、中1ギャップ加配教員を中心に児童の不安を解消するなどの小・中学校間をつなぐ取組の充実を図ることができた。

○加配教員を配置したことによる成果

中1ギャップ加配教員が中心となり、学級担任と児童生徒の必要な関係機関（特別支援学校・児童相談所・病院）との連携が強化されたとともに、小学校と連携した「小6部活動体験」や「乗り入れ授業」を実施することによって、児童の中学校進学にあたっての不安を解消することができた。

設問1 小6部活動体験は、4月から中学校生活を送るにあたって、不安解消に役立ちましたか			
役立った	まあまあ役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった
57%	36%	4%	3%

○アセスメントツール「こころと体のチェック」を活用したことによる成果

毎回のアンケートによって、否定的な回答が多い生徒に関する情報を学年部で共有し、当該生徒に対して教育相談を実施したことにより、当該生徒がもつ悩みを共有したり、望ましい行動指針を確認したりすることができた。

○不登校児童生徒に対する対応

ICTを活用した学習支援を今年度も継続して、授業配信やAIドリルを活用した学習等により学び直しを行うなど、不登校児童生徒の学びを保障することができた。

6 今後の課題と対応

●学習指導や生徒指導の充実を図る取組

本事業を通じて、加配教員が推進役となって、推進地域内の小・中学校の9年間で身に付けさせたい「生活規律」「学習規律」を共有することができた。しかし、発達段階に応じた系統的な「学習規律」「生活規律」に関する指導まで至っていないことから、既存の小中連携交流会を生かし、取組を継続する必要がある。

●不登校児童生徒に対する対応

不登校児童生徒は増加傾向にあり、その要因は家庭環境だけでなく、学力面での不振や情緒面で特別な配慮を必要とするケース等多岐に渡ることから、不登校児童生徒の状況に応じて、関係機関との連携を図りながら、組織的に対応する必要がある。

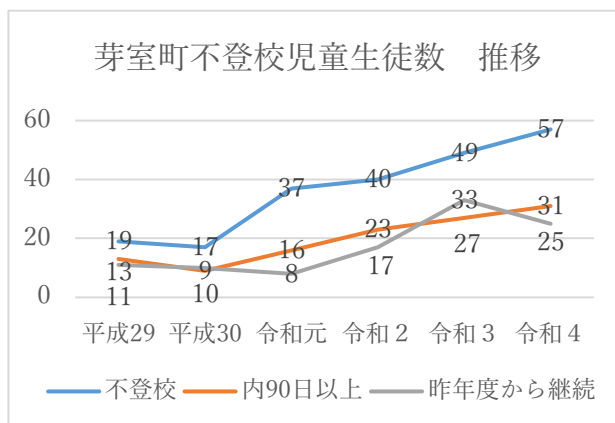
芽室町立芽室中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 芽室町立芽室中学校 (生徒数 381名)
小学校名 芽室町立芽室小学校 (児童数 576名)
芽室町立芽室南小学校 (児童数 77名)

1 推進地域の状況

芽室町では、不登校児童生徒の数が増加傾向にあり、不登校に係る態様が多様化、複雑化、長期化していることに課題がある。

そのため、推進地域における小・中学校教員が課題及び目標を共有し、連携を深めるとともに、芽室町で推進する小中一貫教育の体制整備に中1ギャップ解消に向けた観点を盛り込むことにより、児童生徒の学びの多様化に対応する必要がある。



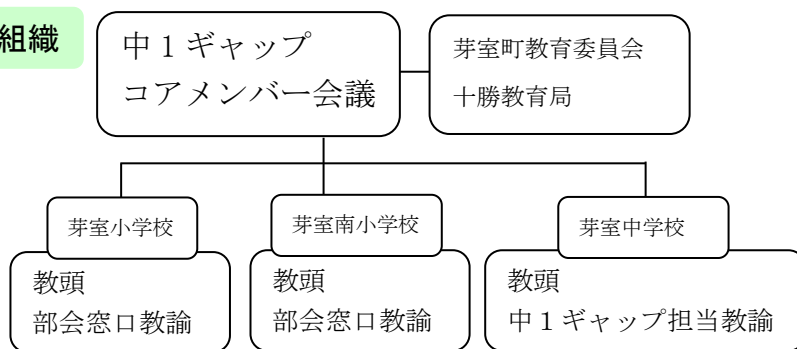
2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小・中学校における9年間を通じた教育課程の編成等、中1ギャップの未然防止につながる小・中学校の円滑な接続を目指す。
- 中1ギャップ問題未然防止に係る取組、各種アセスメントツールを有効活用した教育相談や指導の充実を図る。
- 小・中の連携・交流を推進するために、中核となる教員を配置し、推進地域における組織的かつ系統性のある取組を推進する。

3 中1ギャップコアメンバー会議の組織

(1) 組織図

中学校2名、小学校各2名の教頭・教諭等で構成した中1ギャップコアメンバー会議を設置し、町教育委員会・十勝教育局を加えた構成とした。



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

ア 推進地域全体での事業推進体制の整備

- ① 年5回、中1ギャップコアメンバー会議での協議を実施
- ② 年2回、芽室中学校区3校全教職員による小中4部会交流会を実施
- ③ 子ども理解支援ツール「ほっと」や生活アンケート等のアセスメントツールの結果に基づく組織的な生徒指導体制の確立
- ④ 芽室中学校区における中1ギャップ解消プランの改善・充実
- ⑤ 不登校児童生徒及び不登校の傾向が見られる児童生徒に対する対応策の計画及び組織的な取組

イ よりよい人間関係を築く力の育成を図る学級経営等の改善・充実

「ほっと」や生活アンケートの実施と分析及び活用
 ウ 不登校児童生徒への対応の充実

- ① 不登校傾向が見られ始めた児童生徒への組織的・計画的な早期の対応
- ② 不登校児童生徒に対するICT等を活用した支援

エ その他の取組

新たな不登校を生まないための指導の充実等を含む魅力ある学校づくりに係る
 必要なアセスメントツールの実施

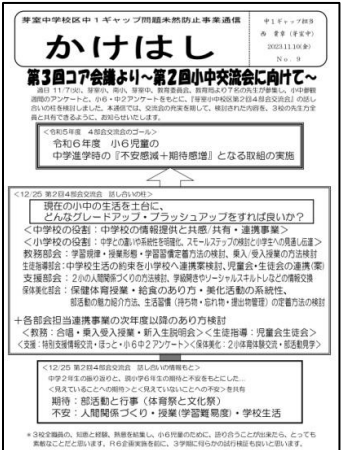
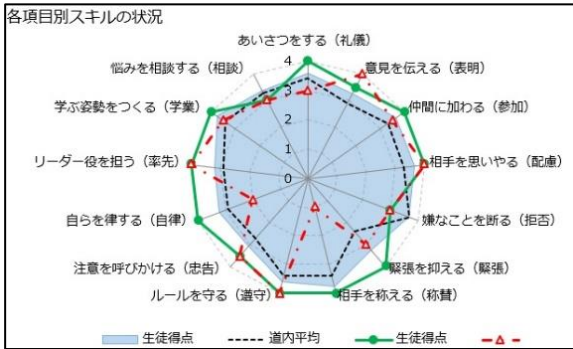
オ 自殺予防教育の推進

援助希求的態度や早期の問題認識、ストレス対処能力を育成するため、芽室中学校
 における「自殺予防教育プログラム」の実施

(3) 加配教員の役割

- ・小中4部会交流会及び小中参観週間の実施や、出前授業、合唱発表会、合同学習、部活動体験週間等の実施に係る調整
- ・「ほっと」をはじめとするアセスメントツールの実施、結果の分析・共有
- ・不登校等、生徒指導上の諸課題に関する調査の分析、共有
- ・各種取組について、通信「かけはし」の作成及び全町立小・中学校への周知

4 中1ギャップ解消プランの実際

時期	芽室中学校	芽室小学校・芽室南小学校
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回中1ギャップコアメンバー会議 今年度の中1ギャップ未然防止事業についての概要や推進内容について共通理解を図った。 →本事業の概要や推進内容について、「かけはし」第1号にて周知し、共有を図った。 	 <p>【通信「かけはし」】</p>
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回中1ギャップコアメンバー会議 各校の教職員が主体となった取組を推進するための体制整備及び第1回小中4部会交流会における協議内容等について、協議した。 →第1回小中4部会交流会について、「かけはし」第2号にて周知し、共有を図った。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 芽室中学校において「ほっと」を実施（6月、10月） 同月実施の教育相談時に活用するとともに、小学校用質問紙をGoogle Formsに変換し小学校へ配付することにより、円滑な実施に資するとともに、児童生徒情報の引継ぎに活用できるよう整備した。 「ほっと」の活用について、「かけはし」第6号にて、周知し、共有を図った。 	 <p>【ほっと】の結果</p>
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 芽室中学校において「心と身体のチェックリスト」を実施（7月、8月、12月、1月） 多角的な生徒理解を基にした教育相談、道徳教育及び特別活動等の指導方法の工夫に努めた。 	

8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回小・中4部会交流会 芽室中学校区全教職員が、「教務部会」、「生徒指導部会」、「支援部会」、「保体美化部会」に分かれ、教育課程、生徒指導、特別支援、健康・体育の観点から、中学校進学時におけるギャップや中学校における学習活動の魅力等について、交流した。 →4部会の交流内容について、「かけはし」第3、4、5号にて周知し、共有を図った。 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回中1ギャップコアメンバー会議 10月実施の小中参観週間における授業観察の視点や、第2回小・中4部会交流会の実施内容について協議した。 →参観週間の実施内容について、「かけはし」第7号にて周知し、共有を図った。 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱発表会 芽室中学校第3学年と芽室小学校第6学年、芽室中学校第2学年と芽室南小学校第5・6学年間で実施した。 	 <p style="text-align: center;">【合唱発表会の様子】</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中参観週間の実施 両小学校の教諭が芽室中学校へ、芽室中学校の教諭が両小学校へ行き、授業参観を行った。第1回小・中4部会交流会において交流された視点を基に参観し、中1ギャップ解消に向けた方策を検討する機会とした。 参観に係るアンケート結果等について、「かけはし」第8号にて周知し、共有を図った。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中2アンケートの実施 入学時と現在の気持ちの変化についてアンケートを行った。 →アンケート結果について、「かけはし」第9号にて周知し、共有を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小6アンケートの実施 中学校に対する希望や不安についてアンケートを行った。 →アンケート結果について、「かけはし」第9号にて周知し、共有を図った。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4回中1ギャップコアメンバー会議 第2回小・中4部会交流会における各部会の協議内容等について、協議した。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級担任による授業参観及び実態交流 各学校の特別支援学級担任が中心となり、児童生徒の姿や特性を把握する機会とした。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校教諭による出前授業（数学科、英語科） 各教科担当教員と各小学校第6学年学級担任が中心となり、中学校教員が各小学校に出向き、専門性を生かした授業を行った。 	
	 <p style="text-align: center;">【第2回小中4部会交流会の様子】</p>	 <p style="text-align: center;">【出前授業の様子（数学科）】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合同学習 中学校保健体育科担当教員と各小学校第6学年学級担任が中心となり、芽室小学校と芽室南小学校の第6学年合同で行った。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動体験週間 3日間、興味のある部活動の見学を行い、児童自身が授業以外の中学校の雰囲気を感じ取ることができるようにした。 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第5回中1ギャップコアメンバー会議 次年度の方向性の具体について協議した。 	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

- ・推進地域における小・中学校教員間の連携が図られるよう、小中4部会交流会の実施に向けた体制整備及び事業の形成的な評価に基づくコアメンバー会議における協議題の設定等、組織の運用のバックアップを行うことができた。
- ・加配教員による通信「かけはし」の発行や、各学校への訪問を通して、小中連携や「ほっと」の活用方法、コアメンバー会議の協議内容等、中1ギャップ未然防止に係る方向性及び取組の状況を定期的に周知したことにより、推進地域内教員のベクトルを揃えて、事業の推進を図ることができた。

○ 効果的な教育課程の改善による成果

- ・各学校の校務分掌と連動した4つの部会からなる小中4部会交流会の実施により、小・中学校の教諭のつながり及び当事者意識を醸成するとともに、進学に対する児童の不安軽減に向けた小・中学校の教育課程の編成や生徒指導の系統性等に係る共通理解及び次年度の取組について協議を行うことができた。
- ・アセスメントツールの活用による児童生徒の実態把握を基にした教育相談の実施、道徳教育及び特別活動の充実を図ったことにより、「ほっと」における「関係維持」の得点が3.8ポイント、「仲間強化」の得点が0.1ポイント、「自己統制」の得点が2.8ポイント増加するなど、学級への所属意識を醸成することができた。

	6月			10月		
	関係維持	仲間強化	自己統制	関係維持	仲間強化	自己統制
第1学年	46.5	56.5	50.5	54.6	55.6	54
	48	56.3	48.4	53.1	55.5	54
	44.6	55.5	48	54.4	52.3	53.4
	45.8	52.2	45.4	51	51.6	51.4
第2学年	52.2	51.6	51.7	52.5	51.4	53.4
	48.2	47	49	51.1	48.9	49.8
	50.9	52.5	52.1	54.2	52.3	52.5
	50.5	48.4	51.2	50.1	49.8	51.4
第3学年	51	59.9	55.5	58.2	57.9	58.9
	55.5	56.7	59.7	57.2	59	60.8
	54.6	53.7	53.2	56	57.5	56.9
	54.1	53.5	52.6	54.6	52.8	54.4
学校平均	50.16	53.65	51.44	53.92	53.72	54.24

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

- ・長期休業前後の結果を活用し、数値の低い生徒に対して、個別の教育相談を行うなど、学級担任や加配教員が生徒一人ひとりの問題に寄り添って対応したことにより、登校状況の改善が見られた。

6 今後の課題と対応

○ 小中一貫教育への取組

今後、芽室中学校区における小中一貫教育を推進していくことから、小・中学校9年間を見通した教育課程の編成に向けて、明確化した目指す子ども像の共通理解の下、小中4部会交流会等、各種連携事業を芽室町の小中一貫教育事業に位置付ける必要がある。

○ 事業の学校組織への位置付け

加配教員が担当として推進してきた各種アセスメントツールの結果の共有や分析について、加配教員がいなくなった後の持続可能な運用に向け、学校組織内に位置付ける等、体制整備及び活用を推進する必要がある。

○ 不登校児童生徒への早期からの組織的・計画的な支援に向けた体制づくり

小・中学校の教員間及び学校と関係機関が連携し、不登校児童生徒及び保護者と合意形成を図りながら、組織的・計画的な支援を検討するための体制整備及び活用を推進する必要がある。

厚岸町立太田中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 厚岸町立太田中学校（生徒数 8名）
小学校名 厚岸町立太田小学校（児童数 22名）

1 推進地域の状況

本中学校区は、素朴で純真な児童生徒が多く、生活態度も落ち着いている。指示されたことをコツコツと真面目にやり遂げることができる。しかし、幼児期から同じ小集団での生活が多く、様々な人と関わる機会が少ない。学校生活においても、一学年の人数が少ないため、競い合う、揉まれる等の経験が乏しく、精神的な弱さも見られる。そのため、自らの考えで学習を進めたり、生活習慣を改善したりするなど、自主的、主体的に取り組む場面で課題が見られる。

不登校については、児童生徒、保護者との話し合いを踏まえ、関係機関との連携、学校体制の整備等を進めてきた。児童生徒や保護者が納得し、改善に向けて前向きに取り組むことができるよう個別の状況に応じて、効果的な支援を検討しながら進めてきた。学校生活、人間関係、進路選択等への不安とともに、家庭環境等に悩みをもつ児童生徒にとってよりよい人間関係づくり、自己肯定感・自己有用感の高揚、自己決定力等の育成が必要である。

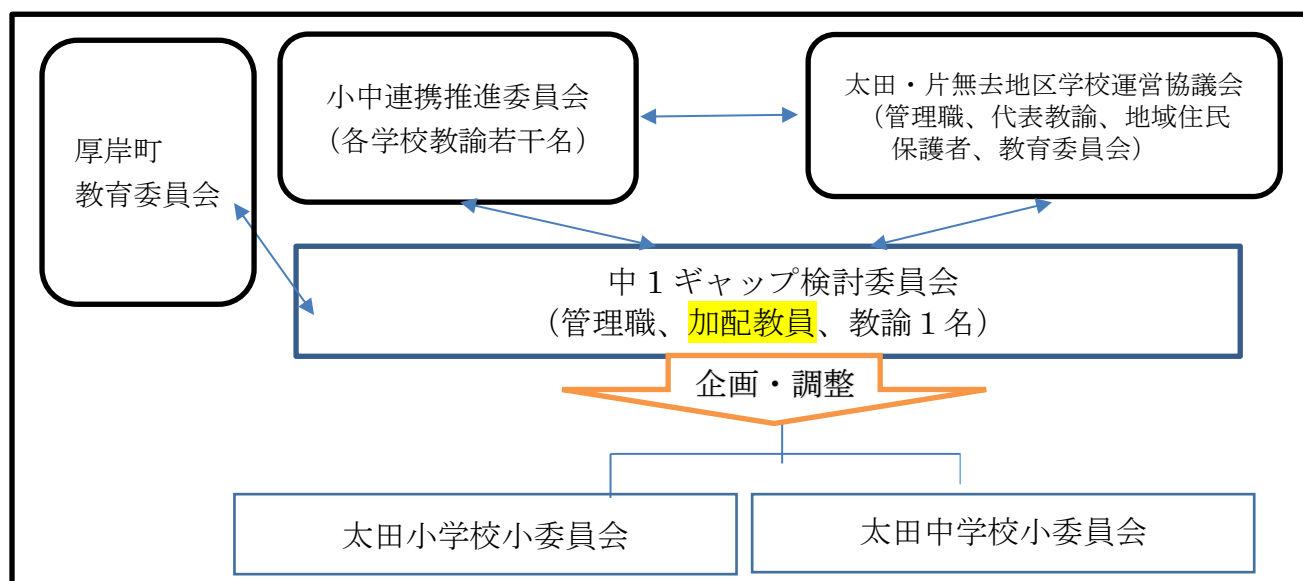
いじめの問題については、ここ数年認知されておらず、「いじめは許されない」と全ての児童生徒が回答するなど、いじめの未然防止に対する意識が高い。このような状況を踏まえつつ、いじめが潜在化することがないように、生徒の「SOSの出し方に関する教育」を充実させるとともに、いじめの認知がゼロであることを生徒や保護者、地域に調査結果を公表し、検証を仰いでいる。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- 小・中学校の取組を相互理解することの促進により、円滑な接続を目指す。
- 「中1ギャップ未然防止検討委員会」を定期的実施し、小中連携の下、不登校やいじめの未然防止に係る組織的な取組を進め、生徒指導上の諸問題を共有するなど、課題の解決を図る取組を推進するとともに、9年間を見通した学びの実現を図るために、一貫した教育課程の構築を目指す。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・ 中1ギャップ未然防止委員会の実施
- ・ 小中連携事業に係る取組の企画・調整
- ・ 小中連携推進委員会及び学校運営協議会と学校との連結

(3) 加配教員の役割

- ・「9年間の学びの地図」を改善し、年間指導計画と関連付けた教育課程を編成
- ・「ほっと」や「生活リズムチェック」など、アンケートの実施・分析
- ・調査結果等を踏まえた中1ギャップ検討委員会への協議資料の提示
- ・「不登校早期発見・支援プランシート」の作成
- ・児童生徒の情報共有を日常的に行い、不登校児童生徒の休み始めの段階から、積極的に支援に当たるなど、早期発見・早期対応を組織的に行う支援策の構築

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	厚岸町立太田中学校	厚岸町立太田小学校
4 月	<p>【第1回中1ギャップ検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区における目標・具体的取組の決定 <p>【小中連携委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区における取組の方向性の確認 <p>【小中合同運動会検討会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同運動会の内容の確認 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒実態交流（毎月） ○ 学校いじめ防止基本方針の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童実態交流（毎月）
5 月	<p>【第1回高学年中学校1日登校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科で実施 <p>【小中合同第1回クリーン作戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、保護者、教職員による学校周辺地域の清掃活動の実施 <p>【第1回太田地区学校運営協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への取組の周知 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回生活リズムチェック 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回生活リズムチェック
6 月	<p>【小中合同運動会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同による運営、実施 <p>【第2回高学年中学校1日登校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の充実（避難所運営ゲームDo!はぐの実施） ・町の防災危機対策室、地域自治会との連携 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回「ほっと」 ○ 中学校生活についてのアンケート ○ 第1回いじめアンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回「ほっと」 ○ 中学校生活に向けてのアンケート（高学年） ○ 第1回いじめアンケート
7 月	<p>【第2回中1ギャップ検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活についてのアンケート結果の分析 ・児童生徒の実態交流 <p>【第1回小中合同研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の交流 ・児童生徒に身に付けさせたい力に係る意見交流 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回学校評価アンケート ○ 自殺予防教育プログラムの開始 ○ 心と身体のチェック（夏季休業前） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回学校評価アンケート
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回生活リズムチェック ○ 心と身体のチェック（夏季休業後） 	

9月	<p>【第3回高学年中学校1日登校（第1回中学校教員による乗入授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科で実施 <p>【第3回中1ギャップ検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の取組の再構築、児童生徒の実態交流等 	
10月	<p>【第4回高学年中学校1日登校（第2回中学校教員による乗入授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学科で実施 <p>【小中合同第2回クリーン作戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、保護者、教職員による学校周辺地域の清掃活動の実施 <p>【授業参観週間の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業公開 <p>【厚岸町総合防災避難訓練の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の防災危機対策室、地域自治会との連携した避難訓練と避難所設営及び運営 	
11月	<p>○ 第3回生活リズムチェック</p> <p>○ 第2回いじめアンケート</p>	<p>○ 第2回いじめアンケート</p>
12月	<p>【第5回高学年中学校1日登校（第3回中学校教員による乗入授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科で実施 <p>【授業参観週間の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業公開 	
11月	<p>○ 第2回「ほっと」</p>	<p>○ 第2回「ほっと」</p>
12月	<p>【第6回高学年中学校1日登校（第4回中学校教員による乗入授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科で実施 <p>【第4回中1ギャップ検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動の成果と課題の交流 ・中学校第2回「ほっと」分析結果の交流 <p>【第2回小中合同研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の取組の経過報告 ・児童生徒に身に付けさせたい力に関する意見交流 	
1月	<p>○ 第2回学校評価アンケート</p> <p>○ 心と身体のチェック（冬季休業前）</p>	<p>○ 第2回学校評価アンケート</p>
1月	<p>○ 第4回生活リズムチェック</p> <p>○ 心と身体のチェック（冬季休業後）</p>	
2月	<p>【第7回高学年中学校1日登校（第5回中学校教員による乗入授業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽科で実施 ・中学校の「総合キャリア発表会」の実施 ・中学校保護者学校説明会の実施 <p>【第5回中1ギャップ検討委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の目標設定及び活動についての協議 	
3月	<p>○ 中学校入学に向けた引継ぎ</p>	<p>○ 中学校入学に向けた引継ぎ</p>
3月	<p>【第8回第6学年中学校1日登校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動で実施 	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に小学校と連携を図り、高学年児童の中学校 1 日登校を昨年度と同様の回数で実施したことにより、高学年児童が中学校の生活や授業の具体的なイメージをもつことができるようになり、中学校生活への不安解消が図られた。特に、小学校高学年や中学校第 1 学年へのアンケートを実施するなど、事前に取り組の成果と課題を整理した上で取り組んだことにより、より教育効果の高い取組とすることができた。

○ 効果的な教育課程の改善

小中合同研修において、「9年間の学びの地図」の改善を図るために、総合的な学習の時間を中心とした教育課程の系統性を整理した上で改善し、さらに充実を図るために、教育課程上の課題を分析し、小学校第 3 学年から中学校第 3 学年までの学習内容や到達目標を設定し、小・中学校 9 年間を見通した教育課程の充実を図ることができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

「心と身体のチェック」の結果を踏まえて速やかに教育相談を実施したり、その結果を教職員間で共有化を図ったりしたことにより、課題早期発見・早期対応型の生徒指導を実践することができ、課題未然防止教育の充実を図ることができた。

また、教育相談体制の充実を図ったことにより、教師と生徒との信頼関係が構築され、悩みを相談する生徒が増加し、生徒の状況を丁寧に把握することができた。

さらに、「ほっと」などの結果と関連付けることにより、生徒を多面的に見取るとともに、中 1 ギャップ未然防止検討委員会で小・中学校の児童生徒の様子を実践交流することができた。

～中学校第 1 学年における『ほっと』の第 1 回と第 2 回の結果比較～

項目	礼儀	表明	参加	配慮	拒否	緊張	称賛	遵守	忠告	自律	率先	学業	相談
6 月	3.0	2.8	3.0	3.0	3.5	3.1	3.5	3.5	2.9	3.0	3.0	3.4	3.1
11 月	3.3	3.1	3.1	3.3	3.5	2.8	3.3	3.5	3.0	3.3	3.0	3.3	3.5
変化	↑ 0.3	↑ 0.3	↑ 0.1	↑ 0.3	=	↓ 0.3	↓ 0.2	=	↑ 0.1	↑ 0.3	=	↓ 0.1	↑ 0.4

※青：上昇 赤：下降

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

中 1 ギャップ未然防止検討委員会や小中合同研修会等において、生徒指導上、配慮を要する児童生徒を把握することや、中学校 1 日登校時における気になる児童生徒に関わる情報交換を行ったことにより、小・中学校 9 年間で育成したい資質・能力について、小・中学校の教職員間で共有することができた。

6 今後の課題と対応

○ 持続的・系統的な教育課程の充実

小・中学校の系統的な教育課程を持続可能なものとするため、「9年間の学びの地図」や総合的な学習の時間の指導計画の改善を図るとともに、各発達段階における到達目標を設定し、教師の役割を明確にするなど、より一層教育課程を充実させる必要がある。

○ 「中 1 ギャップ未然防止事業」の評価と数値目標の設定

効果的に推進するため、中 1 ギャップ未然防止検討委員会において、目標数値の妥当性を吟味するとともに、数値の改善に向けた具体的な方策を検討していく必要がある。

根室市立光洋中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 根室市立光洋中学校（生徒数 243 名）
小学校名 根室市立花咲小学校（児童数 143 名）
根室市立成央小学校（児童数 342 名）

1 推進地域の状況

光洋中学校は、令和3年度に啓雲中学校と統合したことにより、校区内の小学校3校から児童が入学してくる。推進地域の児童生徒は、愛想がよく、素直である。

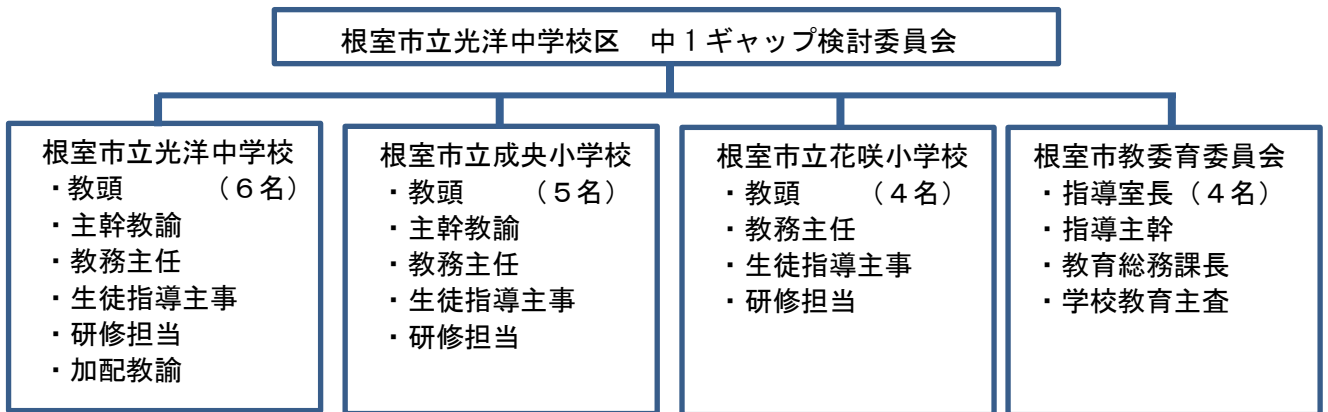
しかし、中学校には、友人関係を上手く構築できなかったり、学習に対して意欲をもてず、授業についていけなかったり等の理由により、教室に入れずにいる生徒や、不登校となる生徒が見られており、学業不振や、いじめ、友達関係や環境の変化などへの不安や不適応を抱える生徒にきめ細かな対応をする必要がある。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

- ・光洋地区学校運営協議会の目指す生徒像の実現に向けた学習指導・生活指導の小中連携の指導体制の整備を図る。
- ・児童生徒の心理的安全性を保障し、児童生徒の自己肯定感の向上を図る。
- ・自他の生命と安全を守るための援助希求的態度の育成に取り組むことにより、不登校児童生徒数の減少などの生徒指導上の諸課題の解決を図る。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・「光洋ブロック中1ギャップ問題未然防止検討委員会」を設置し、毎月「中1ギャップ検討委員会」を実施する。
- ・加配教員をプロジェクトリーダーに据え、出前授業・相互授業参観・授業研究・授業改善研修・生徒指導研修を定期的実施する。

(3) 加配教員の役割

- ア 中1ギャップ問題未然防止検討委員会の企画・連絡・調整
- ・中学校教諭による小学校での出前授業、小・中の相互授業参観、合同研修等の連絡調整

イ 小・中9年間の教育課程の編成

- ・光洋地区の目指す子ども像の育成を目指した教育課程の編成
- ・学習指導・生活指導を軸とした「ピア・サポート」の機能を活かした系統的な実践

ウ 「ほっと」や生活アンケート、全国学力・学習状況調査、児童生徒の問題行動不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査等の各推進校の分析結果の集約及び推進地域等の分析

エ 調査等の結果を踏まえた、中1ギャップ解消プランの改善

オ 新たな不登校を生まないための魅力ある学校づくりに向けた取組の企画・立案及び取組の推進

- ・光洋地区「不登校予防・対応マニュアル」の作成と周知、研修の実施
- ・小・中学校の学習指導・生徒指導の在り方の交流

カ 不登校児童生徒に対するチームでの支援の実施

- ・関係機関との連携や家庭との繋がりを活かした支援の確立
- ・ICTを活用した教育相談や学習支援の推進
- ・対応教員への指導助言及び事例検討等の研修の実施

4 中1ギャップ解消プランの実際

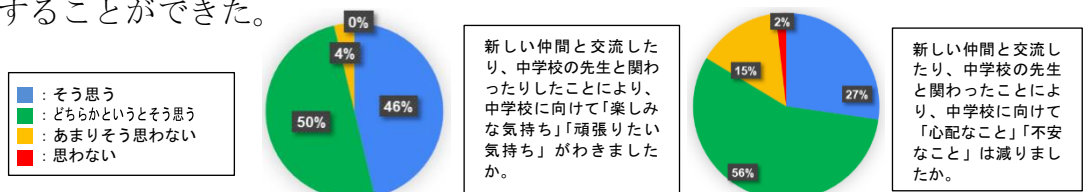
時 期	光洋中学校	成央小学校・花咲小学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回 検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・事業目標及び取組内容の共有 ・年間計画の確認 	
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校教員による「ピア・サポート」出前授業 ○ 中学校教員による「いじめ防止プログラム」出前研修
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回 検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・小・中児童生徒の実態交流 ・出前授業及び相互授業参観計画の検討 	
	○ 小中合同研修会	○ 小中合同研修会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回 検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめの把握のためのアンケート」を踏まえた小・中児童生徒の実態交流 ・合同授業の検討 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自殺予防教育研修 ○ ほっと(第1回) ○ 第1回「ピア・サポート」小中合同研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自殺予防教育研修 ○ ほっと(第1回) ○ 第1回「ピア・サポート」小中合同研修会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と身体のチェック ○ 小中合同研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と身体のチェック ○ 小中合同研修会 ○ 中学校教員による小学校の授業参観
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4回 検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと」の実態交流と課題の把握 ・いじめ事案に係る生徒指導・支援方法に係る協議 	

時 期	光洋中学校	成央小学校・花咲小学校
8 月	○ 小中高合同夏休み学習会 ○ 心と身体のチェック	○ 小中高合同夏休み学習会 ○ 心と身体のチェック
9 月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px;"> ○ 第5回 検討委員会 ・「心と身体のチェックリスト」の実態交流と課題把握 ・2学期以降の授業改善の方策の共有 </div>	
	○ 「ピア・サポート」授業公開 ○ 第2回「ピア・サポート」小中合同研修会	○ 「ピア・サポート」授業参観 ○ 第2回「ピア・サポート」小中合同研修会
10 月	○ ほっと(第2回)	○ ほっと(第2回)
11 月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px;"> ○ 第6回 検討委員会 ・「ほっと」の第2回実態交流と課題把握 ・小学校3校合同授業の企画 </div>	
		○ 中学校教員による小学校の授業参観
12 月	○ 第2回運営協議会 ○ i-check (東京書籍) ○ 心と身体のチェック ○ 小学校3校合同授業	<div style="text-align: center;">  </div> ○ 第2回運営協議会 ○ i-check (東京書籍) ○ 心と身体のチェック
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px;"> ○ 第7回 検討委員会 ・通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童への支援方法の検討 ・中学校体験入学に係る実施内容の検討 </div>	
1 月	○ 小中高合同冬休み学習会	○ 小中高合同冬休み学習会
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px;"> ○ 第8回 検討委員会 ・取組内容の結果分析・反省 ・相互授業参観に向けた児童の実態交流及び支援方法の共有 </div>	
	○ 心と身体のチェック	<div style="text-align: center;">  </div> ○ 心と身体のチェック ○ 小学校2校の相互授業参観 (第6学年)
2 月		○ 中学校体験入学
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px;"> ○ 第9回 検討委員会 ・「ピア・サポート」、「いじめ防止プログラム」及び「不登校防止対応マニュアル」の検討 </div>	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

- ・加配教員を中心に、小学校3校合同授業等において「ピア・サポートプログラム」を実施したことにより、中学校生活に向けて「楽しみな気持ち」「頑張りたい気持ち」が沸いたと肯定的な回答をする児童の割合が96%となるなど、魅力ある学校づくりを推進することができた。

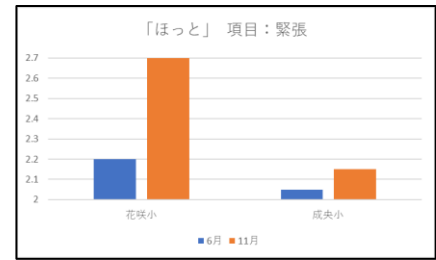


【児童アンケート結果】

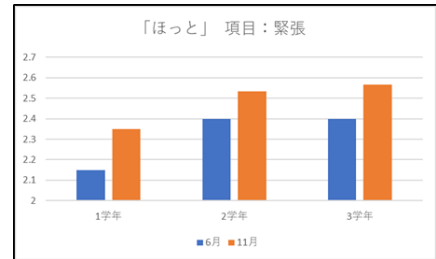
- ・中1ギャップ検討委員会で、児童生徒の実態交流を行うとともに、関係機関や家庭と連携した支援方法を検討したことにより、それぞれの学校におけるチームでの支援体制を整備することができた。

○ 効果的な教育課程の改善

- ・光洋中学校区学校運営協議会と連携し、夏季休業中に推進地域の教員及び保護者が集合し、光洋地区の目指す生徒像を見直すことにより、新たな15歳の姿として「根室を愛し、夢をもつ人」「チャレンジする人」「発想力のある人」を設定することができた。
- ・中学校における「ピア・サポート」の授業公開、及び中学校教員による出前授業を実施し、「ピア・サポート」の機能を生かした学習指導・生活指導の共通理解を図ったことにより、児童生徒理解支援ツール「ほっと」の「緊張を抑える要素」の項目において、中学校全学年及び小学校第6学年のスコアが、6月から11月で向上した。



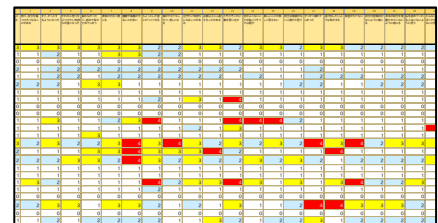
【「ほっと」集計表 (小学校)】



【「ほっと」集計表 (中学校)】

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

- ・「心と身体のチェックリスト」の結果において、教員の見取りと生徒の回答のズレを感じた生徒と面談を実施し、生徒の悩みを早期に発見したことにより、早期支援に繋げることができた。
- ・「心と身体のチェックリスト」の「無回答」に着目し、教育相談を実施したことにより、生徒理解を深めるとともに、支援方法の改善に生かすことができた。



【心と身体のチェック】

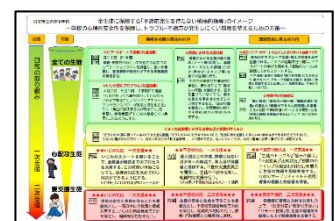
6 今後の課題と対応

○ 小中における「ピア・サポートの機能」を活かした実践の推進

- ・魅力ある学校づくりの推進を目的とし、小・中学校が連携し「ピア・サポート」の機能を生かした実践を行うため、児童生徒の「よりよい人間関係を築く力」などを育成するなど、発達支持的生徒指導を充実する必要がある。
- ・小学校と中学校の教育課程に「ピア・サポート」を位置付け、系統性のある指導をするとともに、日常の授業から、育成した多様な他者と対話する力を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する必要がある。

○ 不登校の予防と、不登校児童生徒に対する「学びの保障」の推進

- ・光洋中学校が作成した資料「全生徒に保障する『不適応発生を待たない積極的指導』のイメージ」を活用し、推進地域における不登校児童生徒に対する「学びの保障」の共通理解を図るとともに、不登校児童生徒の学びへのアクセスを保障するため、一人一台端末を活用した学習支援体制を構築する必要がある。



【中学校作成資料】